



TITLE:

昭和十二年邦文天文書一覽

AUTHOR(S):

水野, 千里

CITATION:

水野, 千里. 昭和十二年邦文天文書一覽. 天界 1938, 18(203): 142-144

ISSUE DATE:

1938-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167612>

RIGHT:

昭和十二年邦文天文書一覽

水 野 千 里

昭和十二年中に新に手にした邦文天文書に就いて、一讀後の感想を述べやう。

番 號	書 名	著 譯 者	冊 數	頁 數	定 價	發 行 年 月 日	發 行 所
1.	圖說天文講座 #3	山本 一清	1	248	¥1.80	昭和12 I 27	恒 星 社
2.	〃	〃4	〃	1	263	〃 〃 III 6	〃
3.	〃	〃5	〃	1	250	〃 〃 IV 20	〃
4.	〃	〃6	〃	1	244	〃 〃 VI 29	〃
5.	〃	〃7	〃	1	272	〃 〃 VIII 20	〃
6.	〃	〃8	〃	1	246	〃 〃 X 20	〃
7.	趣味の天文學	永澤 譲次	1	252	1.60	〃 11 XII 7	雄風館書房
8.	天文と宇宙	荒木 俊馬	1	350	2.80	〃 12 II 18	恒 星 社
9.	星雲の宇宙	相田八之助	1	249	3.20	〃 12 VI 18	〃
10.	天文航海學	酒 井 進	1	539	5.00	〃 10 VI 10	嵩 山 房
11.	曆 (こよみ)	渡邊 敏夫	1	284	3.20	〃 12 XI 16	恒 星 社
12.	迷信の話	沖野岩三郎	1	319	2.30	〃 〃 IV 28	〃
13.	宇宙線	竹内 時男	1	132	2.00	〃 〃 IX 15	三 省 堂
14.	説明星座カード	野尻 抱影	1	16枚	0.75	〃 〃 X 20	研 究 社
15.	天文兵用星の方角を知る法	小島 時久	1	92	0.60	〃 〃 XI 1	恒 星 社
16.	地球盗難	海野 十三	1	558	1.50	〃 〃 IV 5	ラヂオ科學社
17.	昭和十二年天文年鑑	東亜天文協會	1	172	1.50	〃 〃 IV 12	恒 星 社
18.	昭和十三年理科年表	東京天文臺	1	402	1.50	〃 〃 XII 15	丸善株式會社
19.	日本天文學會要報	日本天文學會 #17	93	1.00	〃 11 XI 30	日本天文學會	
20.	〃	〃	〃18	27	0.80	〃 12 VI 30	〃

× × ×

1—6. 圖說天文講座 各巻の内容は下記の通りで、何れも山本博士の目を通されたもの、素人としてこれ丈け心得て居れば、一角の天文家であるから、讀者諸君の必讀を奨める次第である。

第三巻—地球の構造及び生成史(中村左衛門太郎)、地球及び月の運動(藪内清)、月と其の觀測法一(村上忠敬)、曆の話(渡邊敏夫)、第四巻—太陽系の創成(竹田新一郎)、水星、金星、火星(木邊成磨)、小遊星(渡邊敏夫)、木星と土星(田中宗愛)、天王星、海王星、冥王星(稻葉通義)、月と其の觀測法二(村上忠敬)、第五巻—恒星(山本一清)、星辰スペクトル

(荒木俊馬), 恒星の内部構造と星の進化(栗原道徳), 變光星, 新星と其の觀測法(小山秋雄), 二重星と其の觀測法(稻葉通義), **第六卷**—星霧, 星團, 銀河(山本一清), 相對性宇宙(竹内時男), 宇宙觀(荒木俊馬), 流星と其の觀測法(小横孝二郎), **第七卷**—天體觀測と天文機械(山本一清), 反射望遠鏡の自作法(山崎正光), プラネタリウムの話(高木公三郎) 天文時計の話(公文武彦), 世界の天文臺(荒木俊馬), 彗星と其の觀測法(村上忠敬), **第八卷**日本天文學史(山本一清), 東洋天文學史(能田忠亮), 西洋天文學史(荒木俊馬), 圖說天文講座全八卷挿畫索引。

7. **趣味の天文學**は初歩の天文書であつて, 「星の傳説」, 「月と傳説」, 「武將と天文」の項は少年, 少女に喜ばれるであらう。

8. **天文と宇宙** は好評ある天文書, 素人にも玄人にも讚美されるであらう。

9. **星雲の宇宙** は Edwin Hubble の The Realm of the Nebulae を相田八之助氏の丁寧に譯されたもので, 星雲のことならなんでも判る。數多くの圖版は殊に珍重せられるものである。

10. **天文航海學**は第一章天文航海學諸元解説, 第二章天文航海學諸元算法, 第三章位置に關する諸元算法, 第四章天測位置, 第五章潮汐概論の五章からなり, 天文が航海に如何に必要なかを知るに足る。

11. **曆** は渡邊敏夫氏の著, 今迄邦文の曆に關する著書は數多あるが, 邦文中の最右翼に位するものである。其の内容は第一章總論, 第二章曆に必要な天文學的事項, 第三章曆の基本週期, 第四章時間週期の種々, 第五章太陽曆法, 第六章太陰曆法, 第七章雜節及び曆註, 第八章曆本, 第九章日本曆の沿革, 附録諸計算表及び索引である。

12. **迷信の話**は傳承民俗について, 昨日の知識と今日の知識, 陰陽道についての三大項目の許に三十九に分たれて居て, それに結論がついて居る。天文が如何に曲解されたかを知るによい。

13. **宇宙線** 最近盛に論議されて居る宇宙線に就いて, 邦文中最も纏つたものである。「宇宙線の發見及びその概要」, 「宇宙線測定裝置」から説きはじめ, 「宇宙線の起源」で結んである。

14. **星座カード**は16枚表裏で32圖, それに解説書がついて居る。手引カード4枚8圖, 春夏秋冬の北の空と南の空で星を見る概念を與へ, 進んで「星座カード」11枚22圖ある。これと天と比較して見れば, 如何なる人にも星座が判つて來

ることを保證することが出来る。今迄あつた「星座早見」では、ほんの星座名を知るだけであるが、このカードによつて星座も判れば星名も知れ、至つて便利よく早く悟了する。附録1枚は3圖から成り、週極星—北極方面と南極方面と北極星の發見法を圖示してある。これは非常によい思付きである。發見法として下記の十二種が圖示されて居るので、初學者はこの一圖に因つて覚え込めば四季何れの時でも北極星の容易に見出すであらう。十二種は次の通りである。

1. 北斗七星(大熊座)の指極星 β と α を結んだ線を α の方向へ延長する。距離の比例 $1(\beta \text{ と } \alpha):5(\alpha \text{ と北極星})$ 。最も廣く知られてゐる方法(春, 夏, 秋)。2. カシオペア座の W の角 $\beta \text{ } \alpha \text{ } \gamma$ の二等分線は北極星を指す。北斗が地平に低い季節に最も普通に用ひられる方法(秋, 冬)。3. ペガソス座 α と β を結ぶ線を β の方へ延長する。比例 $1:5$ 略々セフェウス座 γ を過ぎる(秋, 冬)。4. ペガソス座 γ とアンドロメダ座 α , 比例 $1:5$ 途中でカシオペア座 β を過ぎる(秋, 冬)。5. 白鳥座 ϵ と α , 比例 $1:4$ (夏, 秋)。6. 鷲座 α と白鳥座 δ , 比例 $4:5$ (夏, 秋)。7. 琴座 α と牧夫座 α とを結ぶ線を底邊とする等邊三角形の頂點は北極星の近くにある(夏, 秋)。8. 乙女座 α と北斗七星の ζ , 比例 $9:7$ (春, 夏)。9. 牧夫座 α と獅子座 α とを結ぶ線を底邊とする等邊三角形の頂點は略々北極星に當る(春, 夏)。10. 獅子座 β と北斗の γ , 比例 $5:4$ (春, 夏)。11. 小犬 α と双子座 β , 比例 $2:5$ (冬, 春)。12. オリオン座 β と馭者座 α , 比例 $4:5$ (冬, 春)。

北極星の發見法カードを擴大したものは、教授上に最も適したものである。このカードは天文ファンが是非携帯すべきもので、甚だ有効な星圖である。

15. **星で方角を知る法** は陸軍少將小島時久閣下の著、陸軍々人に天文殊に星で方角を知る方法を講話され、或は偕行社記事に度々天文に關する論文を寄稿され、陸軍に於ける天文通の第一人者である。本書を直ぐ讀まねはならぬ人々は——現在軍務に服せる將兵、軍事教練中にある學生、未教育の青年訓練所員、豫備、後備の在郷軍人、速成天文知識を得たき人々である。

16. **地球盜難** は科學小説集の「地球盜難」を書名としたもの、地球を威嚇する他天體の正體は何かといふことが骨組である。

17. 「天文年鑑」, 18. 「理科年表」, 御馴染の必携書の昭和十二年版である。

19, 20, 「日本天文學會要報」は専門家の必讀書である。(昭和13年1月29日)